

報告事項 1

神戸市立工業高等専門学校の今後のあり方検討委員会の開催状況について
神戸市立工業高等専門学校の今後のあり方検討委員会の開催状況について、以下のとおり報告する。

令和3年4月27日提出

神戸市教育委員会事務局
事務局長 長谷川 達也

神戸市立工業高等専門学校の今後のあり方検討委員会 開催状況について

1. 設置の趣旨

- ・ 神戸市立工業高等専門学校は創立以来 50 年余りにわたり、ものづくり、まちづくりの現場で中核的な役割を果たす技術者の育成に取り組み、多数の卒業生を産業界に継続的に送り出してきた。今後も、社会の変化に柔軟に対応し、多様化、高度化する社会の要請に応えうる人材を輩出するため、産業界との連携強化を推進してブランド力をさらに向上させていく必要がある。
- ・ そのためには、工業高等専門学校が得意とする技術相談や共同研究、共同教育等を通じた地域産業界とのより一層の連携と、社会・経済のグローバル化がますます進展することを踏まえ、卒業生が国際社会において活躍できるよう、取組を一層強化することが求められる。
- ・ そこで、「神戸市立工業高等専門学校の今後のあり方検討委員会」を設置し、地元企業への人材輩出、地域の産業界や地元企業との更なる連携、高度人材やグローバル人材の育成などを検討いただくこととした。

2. 開催状況

○ 第 1 回

1. 日 時：令和 3 年 3 月 30 日（火）10:00～12:00
2. 場 所：教育委員会会議室
3. 議 事：
 - (1) 神戸市立工業高等専門学校の現状・課題
 - (2) 神戸市立工業高等専門学校の理想の将来像

○ 第 2 回

1. 日 時：令和 3 年 4 月 22 日（木）15:30～17:15
2. 場 所：神戸市役所 1 号館 14 階 大会議室
3. 議 事：
 - (1) 第 1 回会議の振り返り
 - (2) 神戸市立工業高等専門学校の理想の将来像
 - (3) 理想の将来像の実現に向けて

神戸市立工業高等専門学校の今後のあり方検討委員会
委員名簿

(敬称略・五十音順)

おくたに きょうこ 奥谷 恭子	有限責任監査法人トーマツ パートナー
かなさき けんたろう 金崎 健太郎	武庫川女子大学 経営学部 教授
まつい けんじ 松井 謙二	大阪工業大学 ロボティクス デザイン工学部 教授
みなみ ちえこ 南 知恵子	神戸大学大学院 経営学研究科長
もりち たかふみ 森地 高文	神戸商工会議所 副会頭
やまなか しんいち 山中 伸一 (委員長)	学校法人角川ドワンゴ学園 理事長

令和3年4月22日現在

第1回神戸市立工業高等専門学校の 今後のあり方検討委員会の概要

令和3年4月22日



神戸高専の現状・課題について

神戸市教育委員会
が認識する課題

- (1) 高度な技術者やグローバル人材の育成
- (2) 地域産業界（地元企業）等とのさらなる連携
- (3) 実験・研究設備の老朽化対策等
- (4) 外部からのさらなる研究資金の確保
- (5) 教職員の資質向上と外部人材の登用等

(委員意見)

- 産業界・企業からの要請 . . . データサイエンス教育、IoT化への対応、エンジニア・イノベティブ人材の育成、課題解決力の育成 など
- 教員の採用・労務面 . . . 定数管理により柔軟な教員の増員が困難、一般的な大学・高校と比較して教員が多忙（教員の時間・余力）
- 設備・教育環境面 . . . 専門技術教育の前提となる設備・器材の老朽化



神戸高専の理想の将来像について（委員意見）

○教育・カリキュラムの内容等

- 技術進化が激しい分野では、最新の情報、新技術の活用方法などについて、今後は教員から生徒への一方通行の教育でなく、**双方向の教育**も必要になる。
- 製造業の高度化、イノベティブ人材が求められる時代では、工学的な専門知識・実習に加え、**多様性を経験させる仕組み**が必要になる。
- グローバル人材育成の観点**では、フィールドワーク等の**多様な経験**が必要であり、また、日本文化に限らない一般教養も大事な視点。グローバルイングリッシュの修得は、最先端知識の収集や多様な意思伝達を通じた学生の行動変容を可能にする。

○運営組織・教職員の確保・柔軟な働き方

- めざす姿の実現には、現場で取り組む**教員のモチベーション**をあげられる仕組みが必要。運営を活性化するためには、単一組織の適否など組織論の問題も考慮すべき。



神戸高専の理想の将来像について（委員意見）

○企業との連携

- 要素技術・専門技術を身につけることは非常に重要だが、今後はこれに加えて学生のクリエイティビティを伸ばす**課題解決型教育**が企業から求められる。企業と連携して**現実の課題**を提供してもらうなど、共同教育が必要になる。熱心に活動するスタートアップとの連携も可能性を広げられる。

○高専の役割、位置づけ

- 神戸高専は市が保有する市民の資産。**市が持っている資源を高専とつなげる視点**も取り入れて、市民が誇りに思える存在になれば、それが大きな地域貢献であり、神戸のステータスを上げる魅力資源となる。
- 市として高専をどのように活用するか。地元産業界とのコラボの他、研究成果や人材の育成が、**市が発展を促す産業**や力を入れる**スタートアップ施策**へ貢献することが理想的だ。

○その他

- 市内の**専門分野が異なる大学・高等教育機関との連携**により、地域社会への貢献につながる制度もあり得る。

